

「なぜ？」を追究し、自ら学びを深める

13

21 OCT. 2025



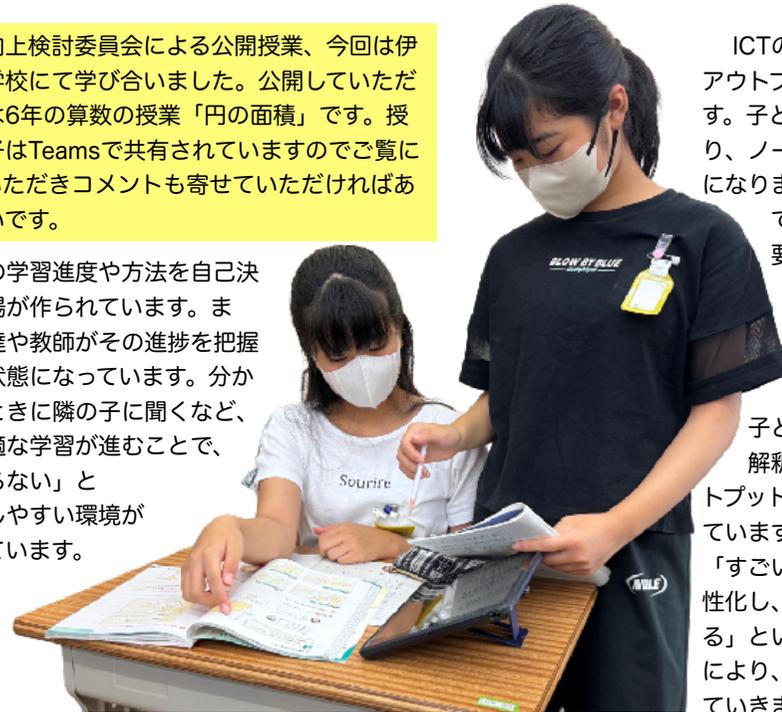
ルーブリックを確認し学習計画を入力する



全児童の進捗を捉えた上での個別指導

学力向上検討委員会による公開授業、今回は伊那東小学校にて学び合いました。公開していただいたのは6年の算数の授業「円の面積」です。授業の様子はTeamsで共有されていますのでご覧になっていただきコメントも寄せていただければありがたいです。

自身の学習進度や方法を自己決定する場が作られています。また、友達や教師がその進捗を把握できる状態になっています。分からないときに隣の子に聞くなど、個別最適な学習が進むことで、「分からない」と言い出しやすい環境が生まれています。



ICTの導入したことによって、言語化やアウトプットの量が間違いなく増えていきます。子どもたちは自分の考えを発表したり、ノートに多くの記述をしたりするようになりました。算数においては、数字だけでなく「言葉を伴わせる」ことの重要性が先生によって日々伝えられており、文章で考えを表現したり、図を使って分かりやすく説明したりと、多様なアウトプットの方法が見られます。

子どもたちは、自分の言葉で教科書を解釈し、それを外部に表現する（アウトプットする）ことで、深く思考を巡らせています。授業後には「こんなに考えた」「すごい頭使った」と感じるほど思考が活性化し、充実感や「どのやり方でも解ける」という自信につながっています。これにより、自分の学びに対する自信も育まれていきます。



納得するまで追究を行なう



様々な考えを出し合って追究する

ルーブリック提示によって児童の自己評価や振り返りを促進し、学習改善につなげることができます

授業の詳細はTeams「InaWaku2025授業づくり」参照

1. 単元構想案におけるルーブリックの特徴

今回の「円の面積」単元構想では、知識・技能、思考・判断・表現、主体的態度の3観点ごとにルーブリックが設定されていました。

児童は学習の目標を事前に確認し、活動後には自己評価・振り返りを行う仕組みとなっています。これによって、学習過程における「見直し」と「振り返り」を繰り返す自己調整学習の視点を強化していると考えられます。

2. ルーブリック提示の教育的効果

文部科学省は「学習評価の在り方ハンドブック（小学校編）」において、ルーブリックの活用が

児童の学びを可視化し、教師と児童が学習の目標や到達度を共有できる利点を強調しています（文部科学省、2022）。また「令和3年度学習評価の在り方に関する調査研究」でも、ルーブリック提示は児童の自己評価や振り返りを促進し、学習改善につながると報告されている。すなわち、児童が自らの学びの位置を把握し、次にどのような行動を取るべきかを判断する「自己調整学習」を支える役割が明確に示されているのです。

3. 振り返りの観点からの評価

本単元案では、授業の最後に児童が「理解したこと」や「取り組み方」を言葉にして整理する活

動が組み込まれています。このような振り返りは、学習指導要領総則で強調されている「主体的・対話的で深い学び」を具体化する実践です（文部科学省、2017）。特にICT（クラウドツール）を用いた振り返りは、児童同士の進捗共有や学習の見える化を可能にし、協働的な学びを促進する点で現代的な工夫であるといえます。

4. ルーブリックを示すことの重要性

以上を踏まえると、ルーブリックを提示する意義は次の3点に整理できるでしょう。

目標の明確化：学習の到達目標が具体化され、児童が見直しを持ちやすい。

自己評価の促進：児童が自らの学習過程を客観視し、改善につなげられる。

学習の質の向上：教師・児童・保護者間で評価基準が共有され、学習改善が協働的に進む。

これは、文部科学省が強調する「形成的評価の充実」「学習の質的転換」と合致するものであるといえます（文部科学省、2022）。

参考文献

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成29年告示）』総則

文部科学省（2022）『学習評価の在り方ハンドブック（小学校編）』